

千葉市立幕張海浜病院

Chiba Makuhari Kaihin Municipal Hospital



このたび、千葉市立幕張海浜病院が無事竣工を迎えることができました。
幕張海浜病院は、引き続き市西部地域の中核的な医療機関として、
市民の皆さまに必要な医療を地域で切れ目なく提供してまいります。
小児・周産期や救急・災害医療などこれまでの海浜病院の持つ機能を
継承するとともに、今後の超高齢社会における医療需要に的確に対応するため、
救急医療体制のさらなる充実や診療体制の強化を図ってまいります。
幕張海浜病院が、市民の皆さまに安心してご利用いただける
病院となるよう、職員一同、全力で取り組んでまいります。
今後とも、皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、
何卒よろしくお願い申し上げます。

千葉市病院事業管理者 山本 恭平



新病院の基本方針

これまでの海浜病院の機能を基盤として、引き続き市西部地域の中核的な病院として総合的な医療を提供するため、
医療機能の強化や集約化により、少子超高齢社会に求められる新病院を整備しました。シンプルな建物形状・平面計画、
スムーズな構内動線・院内動線、防災に配慮した安全な建築計画をコンセプトとして設計しています。

患者に信頼される病院

胎児から高齢者まで
切れ目ない医療の提供

救急医療の強化

災害医療の強化

がんの診療体制の強化

感染対策の強化

新病院における機能強化

- 地域周産期母子医療センター
- 地域小児科センター
- 救急告示病院
- 地域災害拠点病院

政策的医療の機能強化

海浜病院での強みを深化

- NICU：21床▶24床
- 救急・災害医療強化 等

超高齢化社会への対応

増加が見込まれる呼吸器・
泌尿器・脳神経・整形外科・
がん診療など幅広い疾患に
対応できる診療体制の整備

高齢者医療の充実・強化

今後急速に進展する高齢化へ対応

- 新たに肺がんと前立腺がんの
治療を開始
- 手術室：5室▶最大9室 等

診療科 (全32科)

- | | | | | |
|--------------|------------|----------|-----------|--------------|
| ■ 内科 | ■ 脳神経内科 | ■ 呼吸器内科 | ■ 消化器内科 | ■ 循環器内科 |
| ■ 感染症内科 | ■ 糖尿病・代謝内科 | ■ 内分泌内科 | ■ 小児科 | ■ 小児科（新生児） |
| ■ 小児外科 | ■ 外科 | ■ 消化器外科 | ■ 乳腺外科 | ■ 整形外科 |
| ■ 形成外科 | ■ 脳神経外科 | ■ 呼吸器外科 | ■ 心臓血管外科 | ■ 泌尿器科 |
| ■ 産科 | ■ 婦人科 | ■ 眼科 | ■ 耳鼻いんこう科 | ■ 膠原病・リウマチ内科 |
| ■ リハビリテーション科 | ■ 放射線治療科 | ■ 放射線診断科 | ■ 麻酔科 | ■ 病理診断科 |
| ■ 救急科 | ■ 歯科口腔外科 | | | |

建物概要

バス乗り場

来院者が利用しやすいように、敷地内にバスロータリーを整備しました。



防災ひろば

防災ひろばを設け、災害時の連携に配慮しました。通常時は待合や各種イベントでの利用を想定しています。

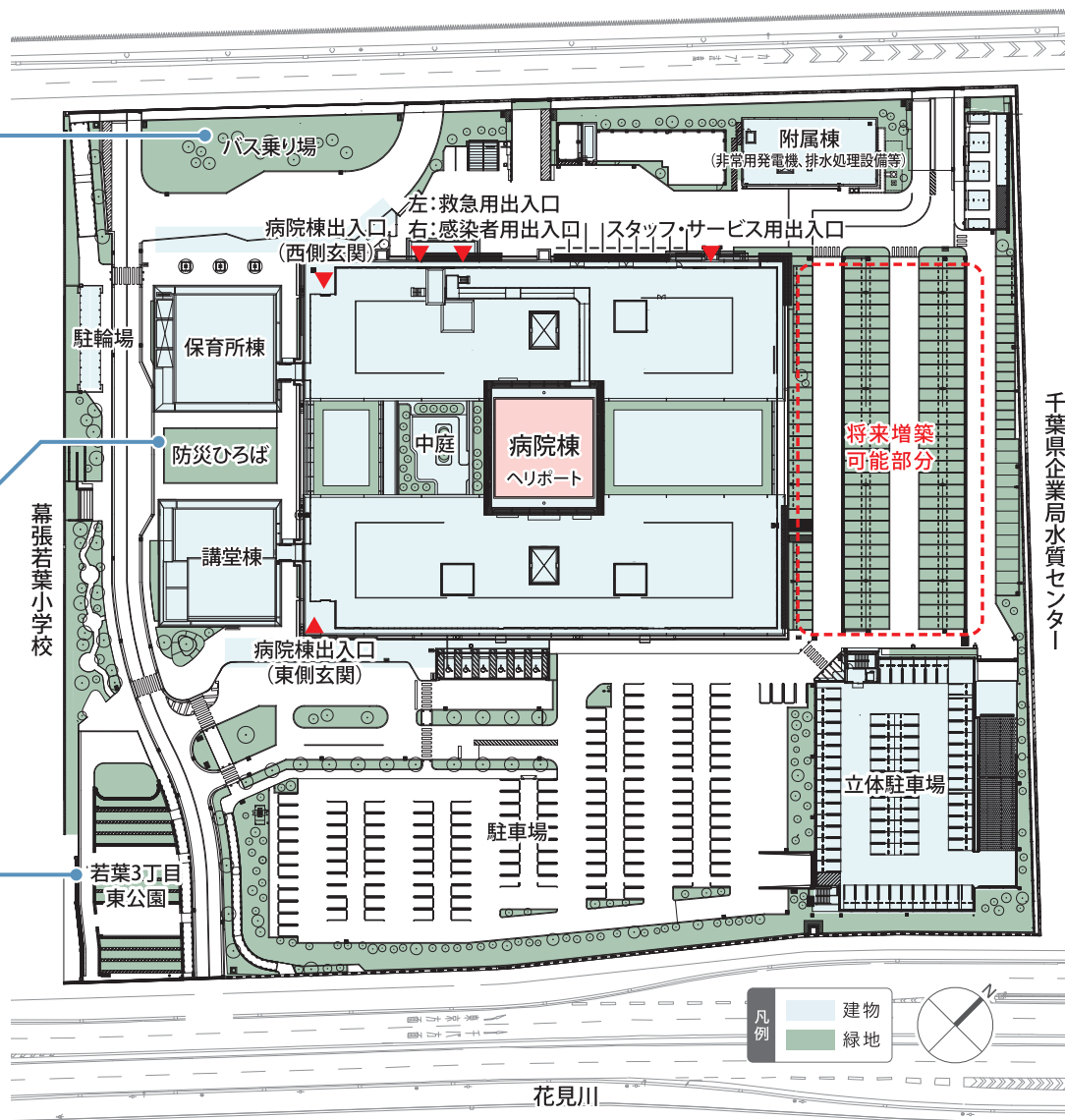


若葉3丁目東公園

地域の方も来院者も利用しやすいよう、病院敷地と一体的に公園を整備しました。訪れる人の憩いの場となるよう、花木等の植栽や、ベンチを多く配置しました。



幕張総合高等学校



緑豊かな敷地内の散策路



来院者を迎える車寄せ庇



来院者・職員用の立体駐車場



ヘリポート

建物配置

病院棟を花見川緑地に正対する形で配置し、緑豊かな川沿いの眺望を確保しました。保育所棟と講堂棟を南西側とし、防災ひろばに面する配置としました。非常用発電機等の設備を北側の附属棟に集約し、利用者との動線が交錯することのない配置としました。

駐車場・駐輪場

駐車場と駐輪場は一般用と職員用をわけて配置しました。また、東側と西側の両方からアクセスできる立体駐車場を設け、柔軟な運用に対応できるようにしました。病院棟出入口（東側玄関）の近くに車椅子利用者等用の駐車場を設け、庇でつなぐことで雨に濡れることなく病院棟に入れるようにしました。

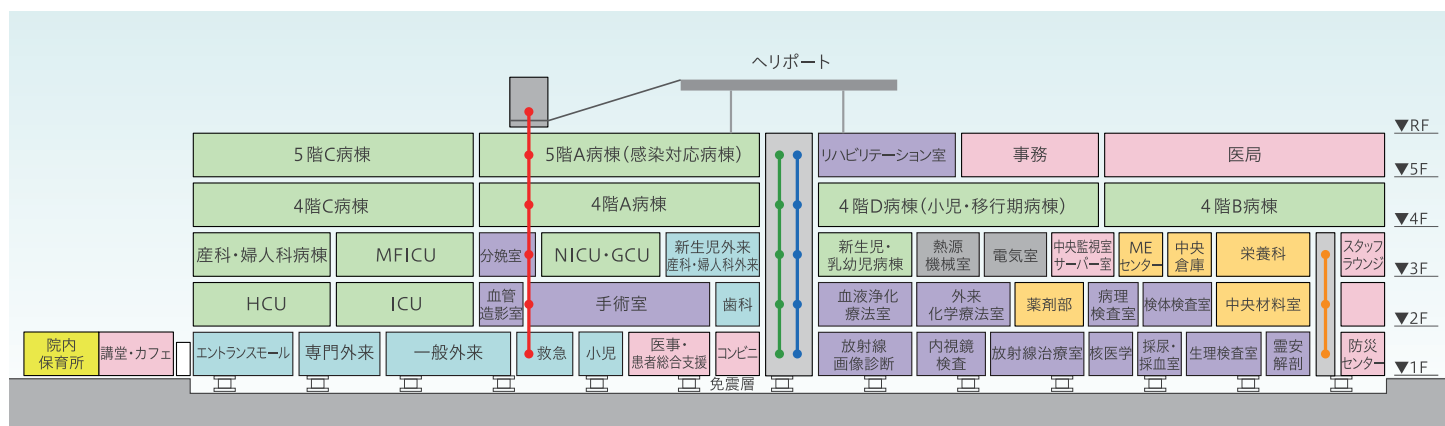
将来の機能拡張に備えた建物配置

病院棟の北東側に、将来の増床や医療機能の拡張に備えた増築が可能なスペースを確保しました。

外部動線

住宅地からの歩行者動線を考慮し、北西側に主たる歩道を整備しました。また、バスや救急車、スタッフ・サービス用車両は北西側から、一般車はどちらからも出入りできる動線としました。

フロア構成



病棟構成と動線

1階には受付や外来、検査部門を集約し、患者さんにとってわかりやすい配置としました。また、2階には手術室や中央材料室等を、3階には周産期部門をまとめ、4、5階に病棟を配置しました。また、中間階である3階に機械室・電気室を設け、エネルギー供給の効率化を図りました。救急から手術・病棟、屋上ヘリポートまでを直結する緊急用エレベーターを設置し、円滑な医療動線を実現しています。

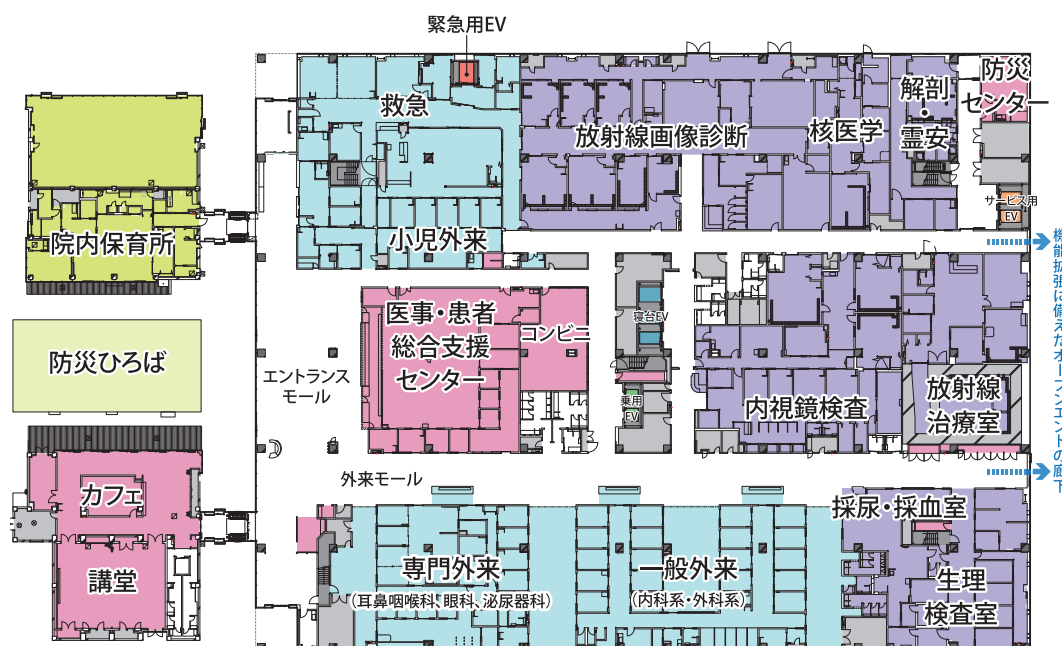
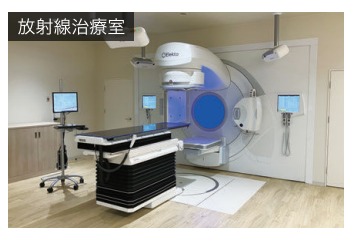
病棟		病床数		病棟	病床数
3階	新生児・乳幼児病棟	23	5階	5階A病棟（感染対応病棟）	41
	産科・婦人科病棟	28		5階C病棟	42
	母体・胎児集中治療室（MFICU）	6	4階	4階A病棟	41
	新生児集中治療室（NICU）	24		4階B病棟	41
	新生児回復室（GCU）	12		4階C病棟	41
2階	集中治療室（ICU）	8		4階D病棟（小児・移行期病棟）	34
	高度治療室（HCU）	8			
合計					349

病棟別病床数

1階 外来・検査・放射線画像診断・救急部門

患者動線を優先したわかりやすい空間

外来・検査・放射線画像診断・救急部門を同一フロアに集約し、患者さんにとってわかりやすく、利用しやすい診療環境を整えています。また、エントランスモール、外来モールは災害時利用を想定し、医療ガス等を整備しています。



2 階 中央診療部門（手術室・ICU・HCU 等）

中庭のある開放的な空間

緊急動線を重視し、手術部門・ICU・HCU などの中央診療部門を集約し、迅速で安全性の高い医療提供を支えるフロアとしています。

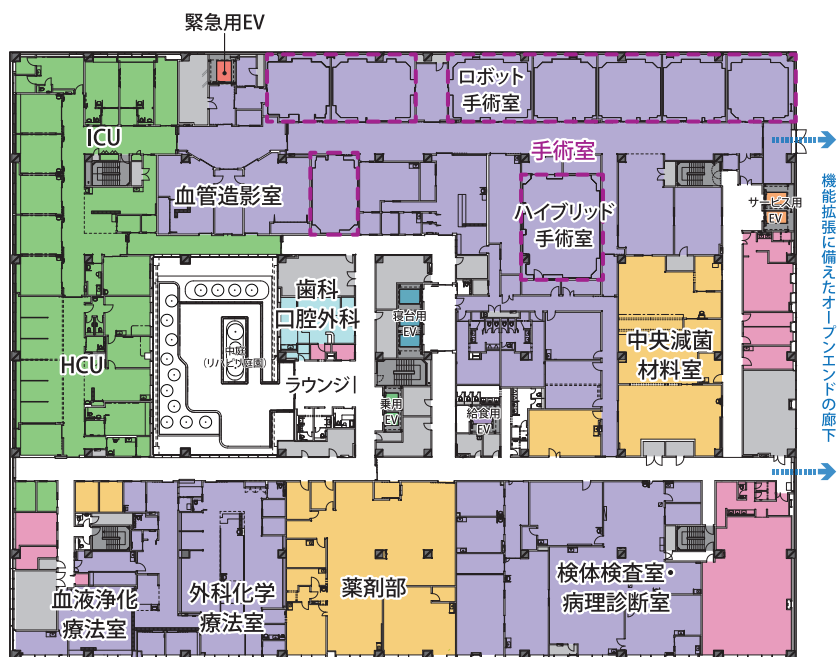
不安を和らげる手術ホール



ICU



中庭のリハビリ庭園



3 階 周産期・小児部門（新生児・乳幼児病棟、産科・婦人科病棟等）

柔らかい雰囲気有病棟デザイン

周産期・小児部門を集約し、出産から新生児、小児医療までを一貫して支えられる体制を整えています。また、緊急用エレベーターの近くに分娩室を配置し、手術部門と直結することで緊急時に対応しやすい配置としました。

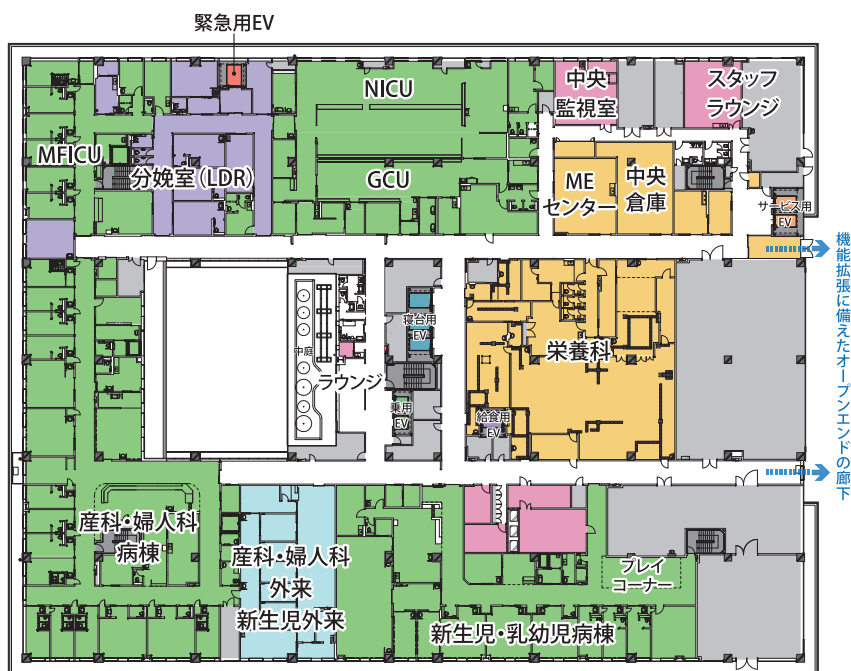
新生児・乳幼児病棟



LDR



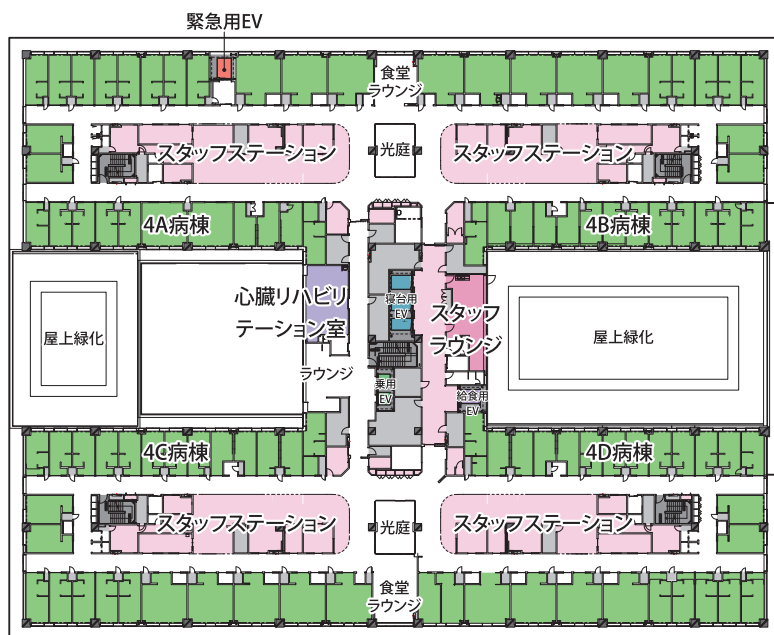
NICU



4 階 病棟

自然光が行き渡る明るく見通しの良い環境

スタッフステーションを中心とした配置とすることで、見守りがしやすい環境を確保するとともに、個室率の高い病室配置としました。



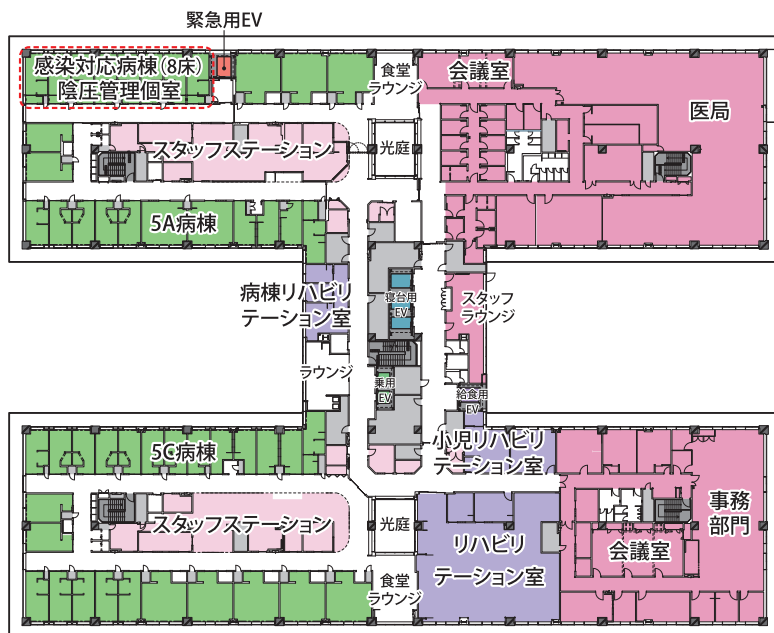
5 階 病棟・リハビリテーション室、事務部門

将来の医療ニーズに応じた病棟計画

感染対応病棟として単独で区画できる病棟配置をした他、医局・事務部門は最大80床の病棟への改修を想定した配置としました。



※イメージ図



ユニバーサルデザイン

年齢や障害の有無に関わらず誰もが安全・快適に利用できるようユニバーサルデザインの病院としました。

整備にあたっては、バリアフリー法の誘導基準や千葉県福祉のまちづくり条例、千葉市バリアフリーマスタープランに準拠しています。



多様な来院者にとって利用しやすい施設計画

大きく見やすいサインや明度差に配慮した案内表示、明快な動線計画により、誰もが円滑に移動しやすい環境を整えました。

感染症対策

新興感染症等の拡大時においても適切に対応できるよう、患者動線を分離した施設配置とするとともに、陰圧設備を備えた病室やトリアージスペースを整備しました。

新興感染症拡大時への備え

陰圧設備を備えたICUやトリアージスペースを整備するとともに、講堂や防災ひろばの活用も想定した配置としています。

外来から入院までの動線分離

感染専用入口から5階A病棟までを緊急用エレベーターで直結し、一般患者と完全に分離した動線を確保しました。

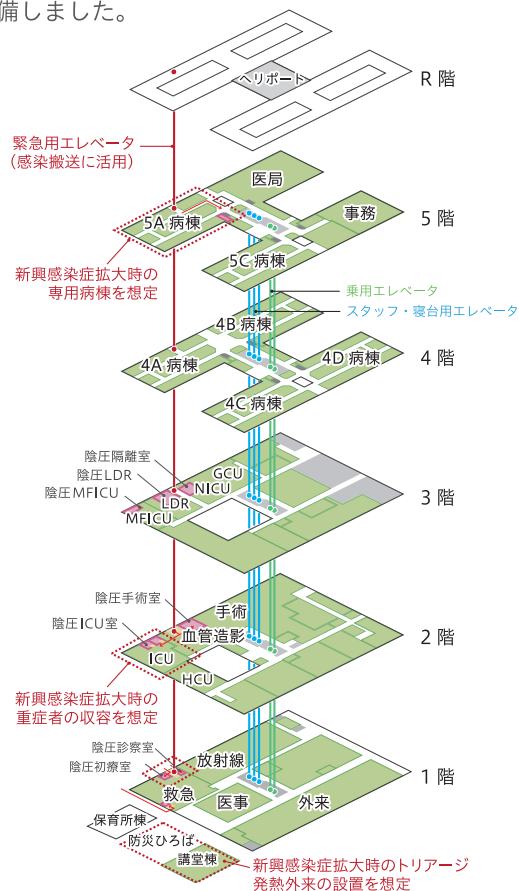
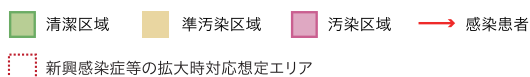
感染対応病棟の整備

5階A病棟を専用病棟とし、新興感染症等の拡大時には区画できるよう扉を設置しました。

病棟・病室の整備

5階A病棟には前室付きの陰圧設備を備えた病室を整備し、個室率を高めることで、感染症に対応しやすい病棟としました。

部門凡例



業務継続計画（BCP）・環境配慮

災害時にも診療を継続できる安全性と、環境負荷の低減を両立した病院計画として整備しました。

BCP

非常時の業務継続性に配慮した病院

1 安定した電力供給体制

電力は2か所の変電所から別系統で受電し、本線・予備線の切替が可能な構成とし、非常時も安定供給を維持します。

2 浸水対策と重要設備の高所配置

高潮による浸水に備え、1階が想定浸水レベルを上回るよう建物を道路面から約2~3mかさ上げしました。電気室及び機械室、中央監視室は上層階に配置し、災害時も病院機能を維持できるように整備しました。

3 地震に強い病院

免震構造を採用し、液状化対策とあわせて大地震時の安全性を確保しました。被災後も診療業務を継続できるよう、医療機器・家具等の転倒防止対策を行いました。

4 非常時にも医療を止めないライフライン対策

電気・ガス・上下水道が途絶しても診療を継続できるよう、非常用発電機・災害用汚水槽を設置するとともに、井水設備を整備しました。また、燃料備蓄用のオイルタンクを整備することで、非常用発電機は72時間連続で運転可能となっています。

ECO

省エネルギーと環境に配慮した建築

1 CASBEE A ランク

千葉市建築環境配慮制度に基づき、省エネ機器や環境負荷の少ない資材を採用することで、快適性・景観にも配慮し、環境性能の評価制度であるCASBEEのAランクを取得しました。

2 エネルギー使用状況の見える化

病院運用の最適化と省エネ活動の啓発のため、電力使用量や機器運転状況等のエネルギー使用状況が見える化するしくみであるBEMSを導入しました。

3 エネルギー消費量の削減

断熱性が高い高性能ガラス、LED照明、高効率設備機器等を採用することにより、エネルギー消費量の削減を図りました。

4 日常利用による省エネ・コスト縮減

井水利用など、非常時に備えた設備等を通常時においても活用することで、エネルギーの有効活用と維持管理コストの縮減を図りました。

建物概要

病院名称	千葉市立幕張海浜病院	基本計画・基本設計	日建設計・システム環境研究所 共同事業体
建物用途	病院／保育所／物販店舗	実施設計・工事監理	日建設計
建築場所	千葉市美浜区若葉3丁目1番地27	CM	プラスPM・シップヘルスケアリサーチ & コンサルティング共同企業体
敷地面積	34,992.47 m ²	施工者	鹿島・鶴沢特定建設工事共同企業体
建築面積	11,843.73 m ²		
延べ面積	38,832.22 m ²		
建物の構造	鉄筋コンクリート造／一部鉄骨造（免震構造）※病院本体棟		
階数	地上5階／塔屋1階（病院本体棟）・地上2階／地下1階（附属棟）		
高さ	30.642 m		
工期	令和5年12月19日～令和8年7月18日		
病床数	349床（成人・高齢者病床：222床／周産期・小児・移行期病床：127床）		
一般用駐車場	230台		
一般用駐輪場	41台		



交通アクセス



電車でお越しの場合

JR 京葉線 海浜幕張駅から徒歩約 20 分



自転車でお越しの場合

JR 京葉線 海浜幕張駅 北口より自転車で約 8 分



お車でお越しの場合

東関東自動車道「湾岸千葉インター」から約 5 分

お問合せ

千葉市立幕張海浜病院 代表：043-277-7711
〒261-0014
千葉市美浜区若葉3丁目1番地27